

気象変動に強く大幅省力化が可能なニホンナシ自家和合性品種の結実管理 技術開発 (2011～2013年度)

共同研究機関:新潟県農業総合研究所園芸研究センター(中核機関)、鳥取県農林総合研究所(園芸試験場)、
(国)鳥取大学農学部、(国)宇都宮大学農学部
普及支援組織:新潟県経営普及課、鳥取県農林総合研究所企画総務部

研究概要:ニホンナシは自家不和合性であり、着果安定のために人工受粉作業が必要である。しかし、人工受粉作業は多大な労力を要し天候の影響を受けやすいという問題がある。鳥取県、鳥取大、新潟県では食味が優れ、人工受粉なくとも実が成る自家和合性ニホンナシ品種を10品種開発した。本研究では、安定的に結実し大幅省力化を可能とする栽培技術を共同開発することで、新品種の普及加速を図る。省力的に生産できて品質が優れる新品種への更新により、消費者が求める「おいしい」ナシが安定した価格で購入できるようになり、国産果実の消費拡大が期待できる。



自家和合性品種の無受粉での開花と結実

課題提案者の感想: 産学官連携コーディネーターの支援に対して



新潟県農業総合研究所
園芸研究センター
松本 専門研究員

競争的研究資金への申請に当たり、**果樹専門のコーディネーターさんを派遣して頂きました。**コーディネーターさんには、**果樹育種に関する技術的な助言に加え、競争的研究資金の趣旨に沿った研究計画の策定方法、効率的な共同研究の推進方法等についても指導**を頂きました。また、二次審査対策として**プレゼンテーションの予行練習にもお付き合い頂き、説明方法等について助言**を頂きました。

当研究所はこれまで中核機関として採択された経験がなく、わからないことも多かったのですが、このような細やかな支援のおかげで、採択に至ることができ感謝しています。